

昭和21年7月10日第3種郵便物認可

大切」などと講師から助言を「リラックスできる」。同町朝一している。

まちづくりグループ(073)ス(0739・47・400

災害に備えた設備見学

新庄中3年生が田辺工業高へ

田辺工業高校(田辺市あけぼの)の災害時に備えた設備を学ぼうと13日、田辺市新庄中学校の3年生らが同高を訪れた。田辺工業高、新庄中ともに市指定の避難施設になっており、夜間の避難時でも分かるよう校名の看板を自動点灯させる装置や避難誘導灯を見学し、避難所に必要な設備について理解を深めた。

新庄中3年生は「新庄地震学」と名付けて地震や津波、防災などを学んでいる。この日は、災害発生時の電気の確保について知るところと技術班6

人が高校を訪れ、生徒会会計の電気電子科2年生、前畑和希君(17)と書記の機械科2年生、下平直輝君(16)から説明を聞いた。

生徒らは屋上で、震度5以上の揺れを感じると自動で校舎上部にある校名の看板「県立田辺工業高校」を1文字ずつ照らし出す装置を見学。2010年に取り付け、電源は太陽光で発光ダイオード(LED)を使っており、津波から逃げる沿岸部の住民にも見えやすくした。夜間の約12時間分を照らせるようにしてお



田辺工業高校の災害時に備えた設備について学ぶ中学生(13日、田辺市あけぼの)

り、普段は日没後3時間点灯する。

太陽光を利用した校内の避難誘導灯11基も見学した。07

年に、高台のグラウンド(海抜13・5㍎)までの坂道約50㍎に5㍎間隔で付けた。震度5以上の揺れで自動点灯し、地震発生と避難を呼び掛けるアナウンスが流れる。普段は自動で、日の出前の1時間と日没後の3時間点灯する。

校名を自動点灯させる仕組みや避難誘導灯は、当時の教諭や生徒たちが力を合わせて作った。前畑君は「田辺工業高には、これらの防災設備を自作できる技術があることを中学生に知ってもらいたかった」と話した。

中学生は熱心にメモを取ったり、高校生に質問したりして現代版「稲むらの火」への知識を深めた。新谷利春君(15)は「避難所の場所が一発で分かる逃げやすい設備だと思った」と話した。